

令和 7 年岩手県モデル事業所伴走支援

施設概要 特別養護老人ホームあいぜんの里

施種種別	介護老人福祉施設 通所介護 短期入所生活介護 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 居宅介護支援 介護予防短期入所生活介護
定員	5 0 名
開設日	2000年 4 月 1 日
所在地	岩手県釜石市

手順01 改善活動の準備をしよう

- ・改善活動のプロジェクトチームの立ち上げ
- ・プロジェクトチーム内でのプロジェクトの目的・メンバー・取り組み期間等の周知
- ・プロジェクトチーム外の職員へ向けた、活動の周知

手順02 現場の課題を見える化しよう

- ・全職員に「課題気づきシート」への記入を依頼し課題を収集。総課題件数206件。
- ・集まった課題の因果関係図や、「課題分析シート」を用いた原因や悪影響の深堀を実施。
- ・全体の約40%が、「8. 直接業務の非効率、逼迫」と「5. 組織体制の不備」の2項目に偏り。

- ①AIを使って議事録作成を行う、議事録を見るルールを決める
- ②申し送りが必要な情報のルール・目標時間を定める

手順03 実行計画を立てよう

導入したテクノロジー

議事録作成AI
(オトノート)

①AIを使って議事録作成を行う、議事録を見るルールを決める

②申し送りが必要な情報のルール・目標時間を定める

取組む課題

1

周知されたはずの情報が全職員に届かず、誤った情報が伝わるなど重要な情報共有体制に問題がある。

課題の原因

- 議事録作成・確認に時間がかかる
- 議事録作成を嫌がり会議に参加しない職員がいる
- 長い議事録は読みたがらない職員がいる

改善活動の方針

- AIを活用した議事録作成の導入
- 議事録閲覧ルールの策定（回覧方法含む）

関与する指標

- 議事録作成時間短縮（2W→2d）
- 議事録公表までの時間短縮
- 会議参加職員数の増加
- 議事録に関する認知度向上

2

朝の申し送りにおいて内容の基準が職員によって異なり要点を得ず冗長になることがある。その結果、申し送りの本来の意味が薄れて形骸化している。

- 申し送りが長く、報告内容が人によって異なる
- 重要な情報が聞き流されている

- 申し送りが必要な情報のルール設定
- 申し送りの目標時間設定

- 朝の申し送り時間短縮（10分減少）
- 申し送り伝達ミス発生回数の減少
- 申し送りの職員満足度の向上

手順04

改善活動に取り組もう

導入したテクノロジー

議事録作成AI
(オトノート)

①AIを使って議事録作成を行う、議事録を見るルールを決める

1

AI議事録ツールの
選定と運用手順の
策定

- 議事録作成AI（オトノート）を選定し導入。AIが作成した議事録内容の確認・修正といった運用手順を定めた。

2

議事録の回覧仕組
みの明確化

- 議事録の作成者を明確にし、回覧の仕組みとして目立つボードへの掲示を開始した。

3

新ルールと機能の
試行と評価

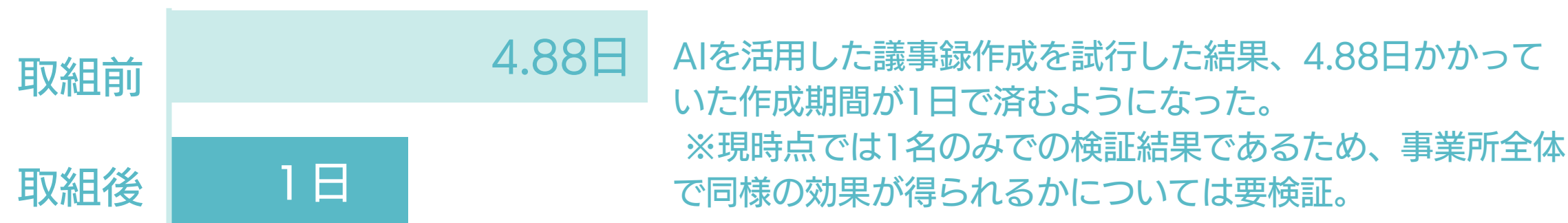
- 会議の場で新しい議事録の作成・閲覧の仕組みを試行し、機能やルールについての評価を行った。

手順05

改善活動を振り返ろう

①AIを使って議事録作成を行う、議事録を見るルールを決める

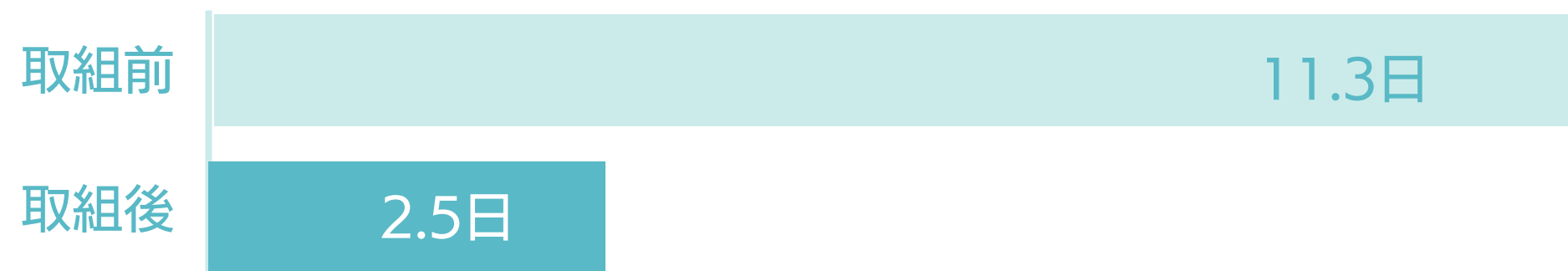
Q.議事録作成にかかる日数は？



議事録作成日数の短縮

議事録共有までの期間短縮

Q. 議事録を見るまでの日数は？



AIを活用した議事録作成と、閲覧ルールを定めたことで、これまで作成から共有までに11.3日かかっていた期間が2.5日へと短縮され、タイムリーな情報共有が可能になった。

AIツールの活用により、会議の議事録作成にかかる業務負担が大幅に軽減された。

AIツールの操作に慣れている職員が限られており、全員が活用できる状態には至っていない。

手順04

改善活動に取り組もう

活用したテクノロジー

特になし

②申し送りが必要な情報のルール・目標時間を定める

1

申し送り情報の精査
と目標時間の定義

- 申し送りで共有していた情報を一覧化し、本当に必要な情報を精査。各職種への聞き取りに基づき、あるべき申し送りの姿と目標時間を10分に定めた。

2

新しい申し送り手順
の策定

- 日誌の事前確認を必須とし、担当職員が口頭でポイントのみを補足するという新しい手順を策定した。

3

活動内容の資料作成
と周知

- 策定した新しい申し送りのルールと手順をまとめた資料を作成し、職員へ周知を行った。

手順05

改善活動を振り返ろう

②申し送りが必要な情報のルール・目標時間を定める

Q.申し送りにかかる時間は？

取組前

18.8分

取組後

14.4分

申し送りが必要な情報のルールと目標時間を定めた結果、申し送りに要する時間が18.8分から14.4分へと減少した。

申し送り時間の短縮

重要な情報の共有に対する
実感の向上

Q.申し送りの重要な情報共有はできているか？

取組前

20%

取組後

85%

申し送りの内容について「重要な情報が共有できているか」という問いに対し、「ある程度そう思う」と回答した職員の割合が、以前の20%から約70%へと大幅に増加した。

申し送りの意義を再確認したことで、情報の取捨選択が進み、会議時間が短縮された。

業プロジェクトメンバーが固定化され、多職種連携や欠員発生時の対応に課題が残った。

手順06

実行計画を練り直そう



- 誰もがAIツールを使いこなせるよう、まずは遊び心を持って触れられる学習機会を設ける。
- 看護職など多職種をプロジェクトに巻き込み、法人全体で改善活動を継続・拡大する。
- 申し送りの質をさらに高め、他職種間でも円滑に情報共有ができるルールや環境を整える。
- 失敗を恐れずに新しいことに挑戦でき、互いにフォローし合えるポジティブな職場環境を作る。